

ワークショップ7

「胃腫瘍内視鏡治療における工夫」

司会 塩谷 昭子（川崎医科大学消化管内科学）

比企 直樹（北里大学医学部外科上部消化管外科学）

内視鏡機器・デバイスの開発と改良、術者の工夫により、内視鏡治療は目覚ましい発展を遂げ、早期胃癌に対する ESD の適応が拡大されている。また 胃粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡・内視鏡合同胃局所切除 (LECS) が普及し、胃癌対しても応用されつつある。本ワークショップでは、切除困難病変に対する内視鏡治療や LECS、それに伴う偶発症に対する予防や治療手技など胃腫瘍内視鏡治療成績に関する各施設の現状と課題克服のための工夫について幅広く演題を募集する。